

【別添1】

学校番号				
3	6	0	0	1

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 25 日

札幌市立 藻岩中学校

1 今年度の重点目標

『自ら 気づき 考え 実行する生徒』の育成

2 今年度の経営方針

知・徳・体の調和と育成、信頼への創造
～学びと人のつながりを感じ、自己有用感を育成する指導の工夫と充実

1. 学ぶ意欲をもって、主体的に取り組むことができる生徒の育成【学ぶ力】
2. 互いを尊重し、支え合うことができる豊かな感性と社会性の育成【豊かな心】
3. 体力向上や健康的な生活に主体的に取り組む生徒の育成【健やかな体】
4. 校種間の連携をはじめ、教員の資質・能力向上等の推進【信頼される学校】

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自立しともに高めあい未来を創造する人を指して「自ら気づき、考え、実行する生徒」	本校の「学校教育目標」に向けて意識的に取り組んでいるか。	A	教職員一人一人がどのような教育活動を展開していくかを考え、学校全体や各校務分掌、特別委員会、学年等において共有する。また、学校としての願いや目標を生徒や保護者などにも分かりやすく、繰り返し発信し、具体的に表現していく。学校だよりにおける見やすい紙面づくり、発行回数や時期の見直しも引き続き行っていく。また、年に11回の学校公開日を実施し、情報公開に努める。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		多くの機会を活用し、生徒や保護者に伝えていることが分かった。また教職員自身が学校教育目標を意識し、生徒と向きあっていることも分かった。学校は色々な子どもがいる場所であり、他の生徒にとっての社会勉強の場にもなるので、生活力のある子どもたちを育ててほしい。				

包括的 重点	家庭や地域とともにある学校づくりの推進	学校公開日の推進 学校HPの充実 地域との連携・相互交流の促進	学校公開日の開催状況 ホームページの更新等の状況 地域、関係機関との対面交流の場の設定	達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
調和のとれた 豊かな心 の育成	豊かな心の育成	道徳教育	道徳の授業で指導計画に基づき、心を育てる指導を実践できているか。	A	年度初めに1年間を見通した計画を立て、確実に授業時数の確保を行っている。また、外部講師による講話を実施したりローテーション道徳などを取り入れたりして、多くの大人が生徒一人一人をきめ細かく支援していけるよう工夫を行っているため、継続する。	A	A
		健やかな体の育成	「健やかな体」育成プログラムの実施	運動やスポーツに触れる機会を提供し、生徒が楽しんで取り組む活動を取り入れ、体力の向上を図る。	A	1学期と3学期に「学年別スポーツ大会」を計画した。1学期はレク的な要素を取り入れた内容やリレー競技などで構成した。3学期は雪に親しむ機会を作るため、スノーフラッグなどの競技で構成したが、グラウンドの状況を鑑み、体育館で行う競技に変更した。グラウンドを使う計画は天候に左右される部分もあるが、次年度も継続する。	A
札幌らしい 特色ある学校 教育	学びの基盤となる【読書】	毎朝10分間の「朝読書」を年間を通じて効果的に実施できているか。	A	朝読書は完全に定着しており、朝の始まりを穏やかに迎えている。読書用の本を忘れる生徒もいるが、学級文庫等を図書室で各教室に設置し対応できている。また、学校評価(生徒回答)においても学年によっては80%近くの生徒が意欲的・肯定的な回答をしているので、継続していく。	A	A	
		子どもの 発達への支援	不登校支援	生徒や家庭からの相談に応じ、積極的にかかわりを深める相談をしているか。	A	様々な事情から教室登校が難しいと感じている生徒に対し、早期に声掛けを行い、スクールカウンセラーや相談支援パートナーとの連携をしつつ、別室登校やちえりあ、まこまる等の外部機関も利用し、生徒・保護者の支援を行った。また、オンライン授業を希望する生徒に対し、家庭や別室で、授業を受けられる環境整備は整っている。	A
信頼される 学校の創造	家庭や地域とともに進める学校づくり	いじめ防止対策	学校は校内生活をいじめや暴力のない落ち着いたものにする工夫をしているか。	A	年度当初はもとより、折に触れ、いじめや暴力は許されないことを指導してきた。健康観察アプリや教育相談、いじめアンケート等を活用し、「いじめ防止対策委員会」は月1回、「学年連絡会」はほぼ毎週開催できた。いじめの予防や早期対応・早期解決に組織的に努めることを継続する。	A	A
		信頼される学校の創造	家庭や地域とともに進める学校づくり	学校は保護者や地域へ情報提供を適切に行っているか。また、行事や授業を参観する機会を十分に設けているか。	A	今年度の学校公開日は年11回の実施を継続できた。また、ホームページも各行事、学校だよりの発行等も含め、定期的に更新できている。学校と保護者の連絡システムである「すくーる」を活用して必要な情報を提供するよう努めてきた。中学校健全育成推進会も開催することができ、地域との対面交流も進んできているので、継続する。	A
教科等の枠組みを越えた教育	進路探究学習(キャリア教育)	総合的な学習の時間において、目標に沿った内容の工夫をしているか。	A	昨年度から2年生の「職業体験」の実施が復活し、1年生の外部講師を招いての「職業講話」「職業調べ」、3年生の「上級学校訪問」等、コロナ前とほぼ同様の進路探究学習(キャリア教育)を実施することができた。今後も目標が達成されるよう、各学年にふさわしい活動を計画していく。	A	A	
		学校関係者評価委員会による意見	学校と家庭の連絡は一方通行ではなく相互にやり取りすることが大切なので、札幌市が取り入れている「すくーる」という連絡手段がその一助となっているように感じました。次の学びの場をつくるために、教職員が工夫して取り組んでいる様子がわかった。これからはAIが生活の一部となっていく可能性が高いので、時期はともかくそのうち導入することは必要だと考える。ただし、その活用方法や向き合い方、ルールについてはしっかり検討して決定していくことが大切である。伴って、その活用の良い悪いに関わる道徳教育の充実もよりいっそう進めてほしい。また、AIの活用は教職員の業務改善にも有効になるのではないかと考える。				

学校独自に設定する分野	小中一貫した教育の推進	6月には藻岩中学校区4校が一堂に会し、授業参観やテーマ別研修等、充実した研究会を実施することができた。また、コミュニティスクールが始まる令和8年度に向けて、「9年間の学びを繋げ、継続的な子ども理解を推進していく」という藻岩地区の方向性を確認した。9月の「さっぽろチリミット」の準備では、タイミングが合わず小中の児童生徒による対面による話し合いは実現できなかったが、アンケートを実施するなど、表現可能な形を模索して積極的に活動したので、継続していく。	A	A	
	業務改善・働き方改革	時間外在職時間の縮減を計りつつ、より効率的な教育課程の見直しを行っている。また、「すくーる」による朝の欠席連絡や各種配付物のPDF配信等も定着してきており、印刷や配付に係る時間の短縮を実現している。「シャボテンログ」による健康観察やいじめアンケートも導入され、情報の確実な収集とその時間短縮に役立っている。また、自動採点システムも導入され、テストの採点業務の時間短縮に寄与している。これからも、改善されるように様々なことを取り入れていく。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		令和8年度からコミュニティ・スクールが始まるので、それに伴う様々な変化を受け入れつつ、家庭や地域と協力して進めてほしい。教職員が、本当に色々なことをやっていることや余裕のない状態で日々過ごしていることが理解できた。			